



## 平成30年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構  
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 —

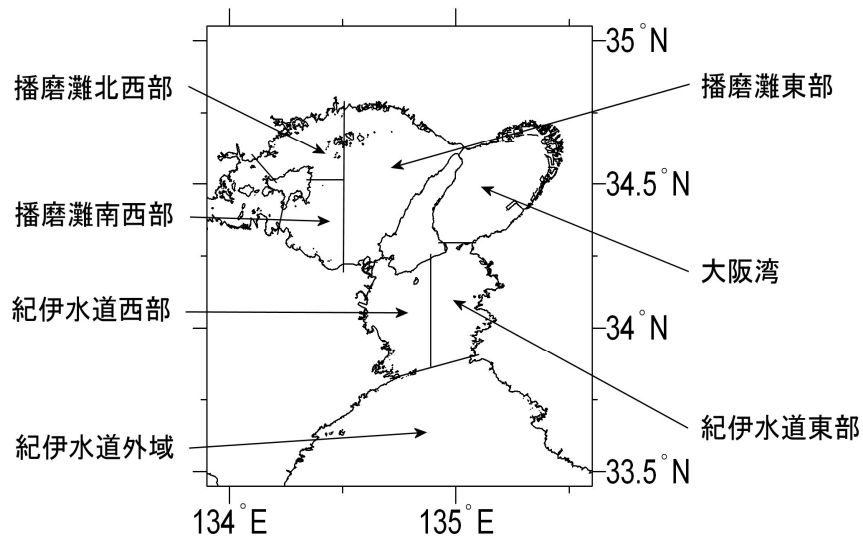
### 今後の見通し(平成30年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスの漁獲量は前年、平年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部・紀伊水道西部・大阪湾・播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年、平年を下回る。



### 問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所  
担当：業務推進部 神山、廣瀬  
資源生産部 崎山、河野  
電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216  
当資料のホームページ掲載先URL  
<http://abchan.fra.go.jp/>

# 平成30年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

## 1. 今後の見通し（2018年5月～6月）

### シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部・紀伊水道西部・大阪湾・播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部のシラスは好漁であった2017年、平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、2007年～2016年の平均値を平年値とした。

## 2. 漁況の経過（2017年1月～2018年4月）及び今後の見通し（2018年5月～6月）についての説明

### (1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2017年の漁獲量は前年の79%、平年の97%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の269%、平年の169%であった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2017年の漁獲量は前年の128%、平年の148%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の172%、平年の248%であった。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2017年の漁獲量は前年の63%、平年の86%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の86%、平年の193%であった。

大阪湾（大阪府）では2017年の漁獲量は前年の79%、平年の78%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の104%、平年の120%であった。

大阪湾（兵庫県）では2017年の漁獲量は前年の64%、平年の75%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の72%、平年の122%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2017年の漁獲量は前年の78%、平年の79%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の78%、平年の136%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2017年の漁獲量は前年の72%、平年の79%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の84%、平年の155%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2017年の漁獲量は前年の89%、平年の101%であった。2017年5月～6月の漁獲量は前年の128%、平年の147%であった。

2018年の瀬戸内海東部海域における春季シラス漁は4月24日現在、始まっていない。

### (2) 日向灘～紀伊水道での卵稚仔調査結果

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2018年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は2兆粒（前年11兆粒、平年62兆粒）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が2018年2月～3月に行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に1粒/m<sup>2</sup>（前年0粒/m<sup>2</sup>、平年8粒/m<sup>2</sup>）、3月に0粒/m<sup>2</sup>（前年2粒/m<sup>2</sup>、平年18粒/m<sup>2</sup>）であった。仔魚密度は2月に0個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年3個体/m<sup>2</sup>）、3月に0個体/m<sup>2</sup>（前年1個体/m<sup>2</sup>、平年8個体/m<sup>2</sup>）であった。紀伊水道での卵密度は2月に0.2粒/m<sup>2</sup>（前年、平年とも0粒/m<sup>2</sup>）、3月に0粒/m<sup>2</sup>（前年1粒/m<sup>2</sup>、平年2粒/m<sup>2</sup>）であった。仔魚密度は2月に0個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年0.02個体/m<sup>2</sup>）、3月に0個体/m<sup>2</sup>（前年0個体/m<sup>2</sup>、平年3個体/m<sup>2</sup>）であった。

### (3) 黒潮流路の現況と今後の予測

4月24日現在、シラスの来遊に影響を与える黒潮流路は、都井岬～足摺岬でやや離岸、室戸岬でかなり離岸、潮岬で著しく離岸している。海面水温衛星画像によると、室戸岬～潮岬沖で黒潮は南東に大きく蛇行しており、両岬沖が大蛇行の西端付近にあることが確認できる。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産研究・教育機構運用の海況予測システム FRA-ROMS の予測結果を併せて考慮すると、5月～6月における室戸岬～潮岬の黒潮は離岸して推移すると予測される。

### (4) シラス漁況（本年春季発生群）の見通し

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、及び外海からの輸送条件に依存する。日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2017年、平年を下回っている。また、4月24日現在、黒潮は潮岬で著しく離岸しており、紀伊水道外域でのシラス漁は好調であるものの、5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。これらのことから、紀伊水道東部では好漁であった2017年、平年を下回ると予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの外海からの輸送条件は悪いと考えられる。また、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量から判断すると紀伊水道西部では好漁であった2017年、平年を下回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。4月24日現在、黒潮は潮岬で著しく離岸しており、また5月～6月の黒潮流路の変動予測から、外海からの輸送条件は悪いと考えられる。また日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2017年、平年を下回っている。紀伊水道外域や紀伊水道での上述のような漁況から判断すると、大阪湾では好漁であった2017年、平年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び外海からの輸送条件に依存する。播磨灘東部・播磨灘南西部・播磨灘北西部では大阪湾と同様の理由から、好漁であった2017年、平年を下回ると予測される。

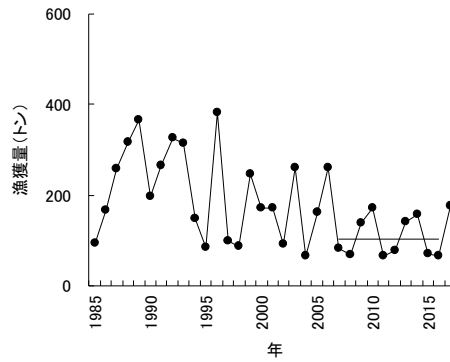
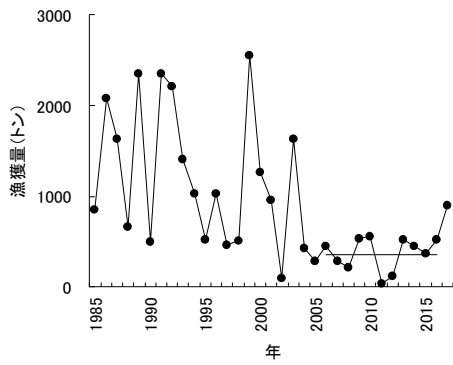


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

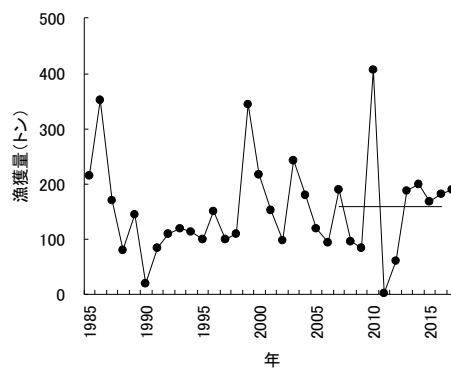
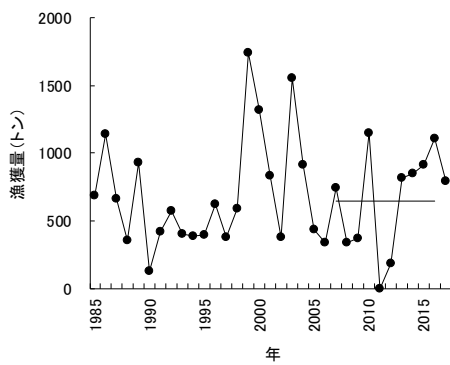


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

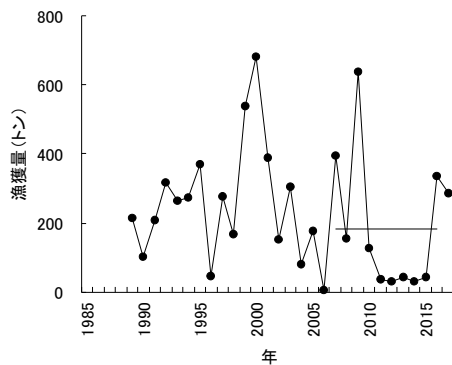
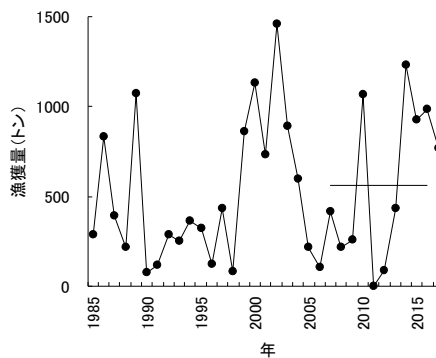
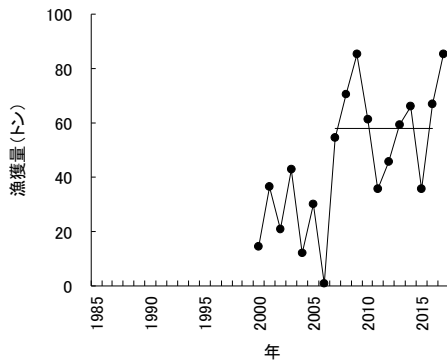


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

## 参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	---